



～外来リハ通信～

2011.08

第4回介助技術講習会を8月6日（土）に開催しました。

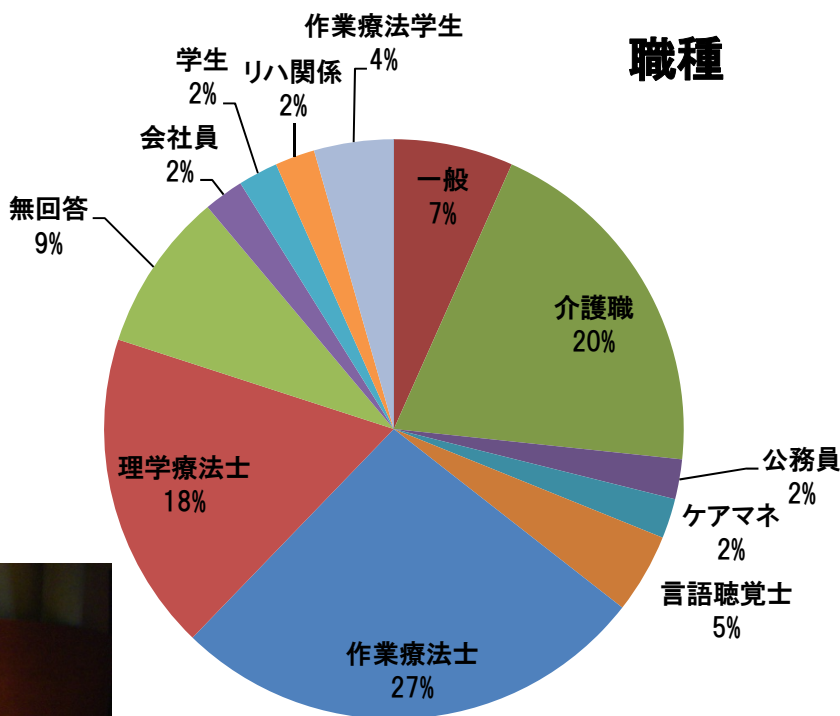


今回の講習会は、

「ADL（日常生活動作）能力を活かし
向上させるための環境の工夫」

というテーマでした。講師に、脳の運動能力回復、動作解析がご専門で、ADL（日常生活動作）に関する専門書の編集もされている、東京工科大学作業療法学科 教授の生田宗博先生をお招きして開催しました。

参加者は52名で、専門職のみでなく、学生や一般の方々の参加もあり、熱心に受講されました。



講演の内容を一部ご紹介します。

講習会では、筋肉や関節といった身体構造からの動作の解説や、残存能力を生かした動作を発揮するための具体的な方法、指導、訓練について、さらに能力を活かして生活できる住環境の工夫について、具体的にお話していただきました。

動作は脳にプログラムされたもの！

動作・・・

それは、脳が認識している機能や能力の結果であり、脳の認識を変化させることで残存能力を高め、動作を変化させることが可能なのです。

自分の脳に「出来るんだ！」と再認識させてやることで、動作の変化を促すことが可能になります。

異常動作は脳の最大限の努力の結果である！

異常に見える動作・・・

それは、残った機能や能力が最大限に発揮された結果であり、その動作を活用し鍛えることでADL能力を向上させることが可能です。

鍛えるとは、機能および能力を用いるための脳のプログラムを確実に働くようにすることです。

能力を引き出す介助！

動作が実際に現れやすいようにすることが、能力を引き出す介助です。

能力を引き出すために抵抗を加えるという訓練の方法を説明してくださいました。

最後の質疑応答の時間には、リハアプローチの仕方や、家庭での介助の仕方についてなどの質問があり、ひとつひとつ丁寧に回答していただきました。

参加してくださった皆様の声は[アンケート結果](#)をご覧ください！